

大阪経済記者クラブ会員各位

「大阪活カグランプリ2020」グランプリの発表について

【お問合せ先】

大阪商工会議所 企画広報室（稲継、堤）
TEL 06-6944-6304

1 本年度の被表彰者

○グランプリ：「TEAM INARI」

【理由】 2025年大阪・関西万博のロゴマークを制作。赤い円で表した細胞が連なるユニークで斬新なデザインは、2025年に向けた希望を与えるインパクトがあり、万博への注目を高めるとともに、大阪のイメージアップに貢献した。

【被表彰者】 TEAM INARI 代表 シマダ タモツ 氏

○特別賞：「株式会社アックスヤマザキ」

【理由】 子育て世代のママが簡単に使える画期的なミシンを開発。コロナ禍の手作りマスク需要に対応するなど、巣ごもり生活で注目される手作り市場の裾野を広げた。創業70年超の家庭用ミシン専門メーカーが打ち出した新機軸が、コロナ禍で生まれたニーズや新需要を的確にとらえた点が評価された。

【被表彰者】 株式会社アックスヤマザキ 代表取締役 山崎 一史 氏

2 選考経過

- 10月26日、第1回選考委員会において、ノミネートされた43候補から9候補を選出。
- 11月26日、第2回選考委員会において、委員による投票を実施し、最高得票を獲得した「TEAM INARI」がグランプリ候補に決定した。また、「株式会社アックスヤマザキ」を特別賞候補とすることとなった。
- 12月18日、正副会頭会議において被表彰者を決定した。

3 表彰式

【表彰式】

日時：12月21日（月）15：15～15：30

場所：大阪商工会議所7階 国際会議ホール

内容：表彰状、トロフィーの贈呈／今宮戎神社より記念品を贈呈
記念撮影／受賞者による挨拶

以上

参 考

【大阪活力グランプリ2020実施概要】

1. 趣 旨

大阪の地域経済・産業発展に多大の貢献を果たした個人、法人・団体・施設等を表彰し、その貢献をたたえるとともに、大阪のチャレンジ精神・パイオニア精神の発信・高揚を図る。

2. 主 催

大阪商工会議所

3. 協 力

選考委員としてご協力いただけるマスコミ各社

4. 表彰対象

- ①対象者 : 個人、または法人、団体、施設等 (会員・一般を問わず)
- ②対象地域 : 大阪府内
- ③対象期間 : 令和元年12月～令和2年11月

5. 表彰要件

- ①大阪地域の経済振興・産業発展・イメージアップ等に貢献した個人、法人・団体・施設等。
- ②新機軸の製商品・サービスを開発、企業経営や事業推進等で革新的なビジネスモデルを導入、もしくは集客に多大の成功を収めた個人、法人・団体・施設等。

6. 審査手続き

- ①大阪商工会議所内に選考委員会を設置 (9月18日)。
- ②選考委員に被表彰候補案件の推薦を依頼するとともに、大阪商工会議所議員・部会長・委員長・支部長各位に候補案件推薦を依頼 (10月1日)。
- ③第1回選考委員会で被表彰候補案件を絞り込み (10月26日)。
- ④第2回選考委員会で選考委員による投票を行い (11月26日)、正副会頭会議に候補案件を推薦。
- ⑤正副会頭会議において被表彰者を決定 (12月18日)。

「大阪活カグランプリ2020」選考委員会委員

(順不同・敬称略)

委員長	大阪商工会議所	専務理事
委員	朝日新聞社大阪本社	経済部長
	朝日放送テレビ	報道企画部長
	NHK大阪拠点放送局	広報部長
	大阪日日新聞	編集局報道部デスク
	関西テレビ放送	報道局報道センター報道部長
	共同通信社大阪支社	編集局経済部長
	産経新聞大阪本社	経済部長
	時事通信社大阪支社	編集部長
	テレビ大阪	報道スポーツ局長
	日刊工業新聞社大阪支社	編集局次長兼経済部長
	日本経済新聞社大阪本社	編集局経済部副部長
	毎日新聞社大阪本社	経済部長
	毎日放送	報道局次長兼ドキュメンタリー報道部長
	読売新聞大阪本社	経済部長
	読売テレビ放送	報道局次長兼デジタル戦略部長
	大阪商工会議所	常務理事・事務局長
	大阪商工会議所	総務企画部部長

(以上18名)

【参考】「大阪活カグランプリ」歴代被表彰者一覧

○第1回グランプリ（平成14年12月）

＜グランプリ＞東大阪人工衛星プロジェクト

（理由：東大阪市の青木豊彦・アオキ社長を中心に取り組んでいるなにわの人工衛星づくりは、まだ現実にはなっていないが、中小企業の技術力の高さを示し、夢を与えた）

＜特別賞＞アンジェスMG

（理由：大阪大学の森下竜一助教授が創業し、9月25日に東証マザーズに上場。ゲノム創薬分野としても、大学発ベンチャーとしても初の上場を果たし、バイオベンチャーへの関心を集めた）

＜特別賞＞南堀江界隈

（理由：かつて家具の街として栄えながら、取り残されていた「南堀江」を意欲とアイデアで、若者の街として再生。今や大阪になくってはならない街になっている）

○第2回グランプリ（平成15年12月）

＜グランプリ＞なんばパークス

（理由：大阪ミナミの拠点として当地のイメージの高揚に貢献するとともに、開業6日間で来場者数が100万人を突破するなど今後も継続的な経済効果が期待できる）

＜特別賞＞阪神タイガース

（理由：18年ぶりのリーグ優勝は沈みがちな関西人や関西経済を元気づけた。経済効果以上の活気を大阪の街に戻した貢献度は大きい）

○第3回グランプリ（平成16年12月）

＜グランプリ＞Team OSAKA

（理由：産学連携によるサッカーロボ「ヴィジオン」を開発。「ロボカップ」国内大会（5月・大阪）、国際大会（7月・ポルトガルリスボン）でともに優勝。また、吉本興業、ダイヘンなども加わり40社で6月に新組織「Roobo」を設立、ロボット普及に尽力している）

＜特別賞＞該当なし

○第4回グランプリ（平成17年12月）

＜グランプリ＞新生・そごうと“心ぶら”の復活

（理由：そごう心斎橋本店が9月7日に5年ぶりに再オープンし、大阪ミナミに新たな賑わいの拠点が誕生。心斎橋筋商店街は、そごう開店を機に大人の街の復活に向け共同で取り組み。“心ぶら”という言葉も復活した感がある）

＜特別賞＞ガンバ大阪

（理由：Jリーグ発足後、関西勢として初のリーグ優勝を果たした）

○第5回グランプリ（平成18年12月）

＜グランプリ＞天満天神繁昌亭

（理由：官に頼らず市民の寄付により、大阪に60年ぶりとなる落語専門の定席を復活させた。伝統芸能という文化発信基地の常設で大阪のイメージアップに大きく貢献。さらに地元商店街の活性化も期待できる）

＜特別賞＞株式会社グローバルウイングス

（理由：ビジネスジェットサービス専門の航空ベンチャー。大企業をバックとしない独立ベンチャーで、関西国際空港を基地として利用するなど、大阪経済への貢献が期待できる）

○第6回グランプリ（平成19年12月）

＜グランプリ＞シャープ株式会社

（理由：堺市に建設される液晶パネル工場・薄膜太陽電池工場は、雇用の拡大や関連企業の進出など、地域に大きな経済波及効果を与えることが期待される）

＜特別賞＞大阪フィルハーモニー交響楽団 音楽監督 大植 英次 氏

（理由：指揮者として国際的に活躍する一方、創立60周年を迎えた大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督として、「星空コンサート」や「大阪クラシック」など、大阪で気軽にクラシック音楽を楽しむ機会を創出している）

○第7回グランプリ（平成20年12月）

＜グランプリ＞京阪電気鉄道株式会社

（理由：京阪中之島線の開業により、ビジネス街・中之島へのアクセスが飛躍的に向上するとともに、街の姿を大きく変える起爆剤としての役割が期待できる）

＜特別賞＞山本化学工業株式会社

（理由：英スピード社の水着「レーザー・レーサー」が席卷した北京五輪の競泳種目で、独自開発した「バイオラバースイム」の技術力が注目を集め、大阪の中小企業の実力を世界にアピールした）

○第8回グランプリ（平成21年12月）

＜グランプリ＞阪神電気鉄道株式会社

（理由：大阪・難波を経由して神戸と奈良を結ぶ新たな広域ネットワークを形成し、関西圏の活性化や利用者利便の向上に大きく寄与した）

＜特別賞＞水都大阪2009と水辺の活性化事業

（理由：水の都の素晴らしさを再認識させるとともに、人々と水とのふれあいを促進させ、大阪の魅力向上に大きく寄与した）

＜特別賞＞井山裕太名人

（理由：史上最年少かつ大阪出身者として初めて囲碁の「名人位」を獲得した功績は大きい）

○第9回グランプリ（平成22年12月）

＜グランプリ＞あっぱれEVプロジェクト

（理由：環境性、デザイン性に優れた三輪の電気自動車（EV）「Meguru」を開発し、関西の中小企業の技術力をアピールした）

＜特別賞＞上本町YUFURA

（理由：大阪新歌舞伎座を核にした新たな複合施設は、大阪の文化芸術の発信拠点として、活力向上とイメージアップに大きく貢献している）

○第10回グランプリ（平成23年12月）

＜グランプリ＞大阪ステーションシティ

（理由：大阪の玄関口である大阪駅に、新たな人の流れを創出した功績は大きく、関西再生をリードする拠点として期待される）

＜特別賞＞大阪マラソン

（理由：大阪初の市民参加型マラソンとして多くの人を呼び込むとともに、まちの魅力を広く発信した）

○第11回グランプリ（平成24年12月）

＜グランプリ＞新関西国際空港会社の設立とLCCの就航

（理由：関西国際空港と大阪国際空港の一体運営、日本初の本格的LCCの就航により、地域経済の活性化に大きく貢献した）

＜特別賞＞100周年の吉本興業、通天閣・新世界、ひらかたパーク

（理由：創業100周年の節目の年に様々なイベントを実施し、大阪の魅力を広く発信した）

＜特別賞＞山中伸弥教授がノーベル生理学・医学賞受賞決定

（理由：大阪・関西における製薬・バイオ産業の活性化に大きなインパクトが期待される）

○第12回グランプリ（平成25年12月）

＜グランプリ＞グランフロント大阪

（理由：大阪の新たな玄関口として、商業活性化や交流人口の拡大に大きく貢献するとともに、知的創造拠点「ナレッジキャピタル」における新産業創出も期待される）

＜特別賞＞該当なし

○第13回グランプリ（平成26年12月）

＜グランプリ＞ユニバーサル・スタジオ・ジャパン

（理由：人気映画「ハリー・ポッター」の世界を再現したエリアは、国内外から観光客を呼び込む新たな集客拠点となり、経済活性化に大きく貢献した）

＜特別賞＞あべのハルカス

（理由：日本一の超高層ビルとして新たな集客拠点を形成し、周辺地域の活性化に寄与した功績はグランプリに準ずる）

○第14回グランプリ（平成27年12月）

＜グランプリ＞インバウンド消費を盛り上げたミナミの商店街

（理由：急増する外国人観光客の受け入れ体制を強化することで、「爆買い」による消費拡大に貢献し、大阪経済に活力を与えた）

＜特別賞＞該当なし

○第15回グランプリ（平成28年12月）

＜グランプリ＞EXPOCITYと市立吹田サッカースタジアム

（理由：万博記念公園内に隣接してオープンした両施設が相乗効果を発揮し、北大阪に新たな賑わいを創出、大阪の活性化に貢献した。スポーツ施設の新たな公民連携モデルとしても注目される）

＜特別賞＞該当なし

○第16回グランプリ（平成29年12月）

＜グランプリ＞TWILIGHT EXPRESS 瑞風

（理由：大阪から豪華寝台列車による西日本エリアを巡るコースが、旅の起点として大阪の存在感を高めるとともに、西日本沿線の観光活性化に大きく寄与した。インバウンド効果の拡大も期待できる）

＜特別賞＞近畿大学

（理由：「近大マグロ」をはじめとする研究開発成果や、積極的に産学連携を進める等の実学志向が注目と共感を集め、4年連続で志願者数が日本一になるなど、大阪の大学の力を全国に示すものとして評価された）

○第17回グランプリ（平成30年12月）

＜グランプリ＞「2025年国際博覧会の大阪・関西への誘致活動」

（理由：広範な市民レベルの活動が万博誘致に貢献した。なかでも「WAKAZO」は若い世代の代表として万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」について考え、世界規模の課題解決をめざすなど、未来志向で誘致機運を盛り上げた点が評価された）

＜特別賞＞株式会社木幡計器製作所

（理由：1909年創業の老舗企業が事業承継を機に新分野に進出し、様々な試行錯誤を経て、呼吸筋力を測定する医療機器を上市。中小企業の新分野進出のロールモデルと目されるとともに、ベンチャーのものづくりをサポートするイノベーション創出拠点も開設、新たな共創型のものづくりエコシステムとして期待できる）

○第18回グランプリ（令和元年12月）

＜グランプリ＞百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録

（理由：大阪初の世界遺産登録を4度目の挑戦で達成した。大阪の存在感を世界にアピールし、インバウンドを含めた観光振興が期待できる）

＜特別賞＞該当なし

以上